

絆 (きずな)

目指す児童像

- やさしい子
- よく考える子
- ふるさと思いの子

自分の命は自分で守る ～5月の校長講話より～

5月2日に行った校長講話では標題のテーマで2つのことを話しました。1つは自分でSOSのサインを出すこと、もう1つは交通事故で命をおとさないことです。



日本は欧米諸国に比べると、若者の自殺者が多い国です。2021年に国内で自殺した小学生は11人、中学生は194人、高校生は314人となっており、年齢が上がるほど多くなっています。

講話では、「何がつらくて自殺してしまうのか？」を子どもたちに予想させてみました。「嫌な事があったから」「いじめられたから」などが出ました。

自殺に至る理由は複数あるのですが、小学生の場合は家族からのしつけや家族の叱責、親子関係の不和など中高生に比べて、家庭に起因するものが多いのが特徴となっています。



次に「自分だったら、つらいこと、なやんでいることがあったらどうするか？」を考えさせてみました。子どもたちには、いろいろな方法があるけれど、

まず身近な大人、つまり学校の先生、スクールカウンセラーの先生、お父さん、お母さんなどの家族に相談するように話しました。

福井県では自殺予防のため、「SOSの出し方に関する教育」を実施することを義務づけています。本校でも発達段階に応じた指導をしていきたいと考えています。

次に作文の読み聞かせをしました。交通事故で小学校1年生のわが子を亡くした方の作文です。子どもたちはしーんと聞いていました。亡くなった子の最後の言葉「大きい車どけてちょうだい」が心に響きます。

2020年に国内で交通事故により亡くなった小学生は20人です。低学年では歩行中、高学年では自転車に乗っている時の事故が多いそうです。そして、月別でみた場合、最も多いのが5月なのです。交通ルールの遵守、自転車に乗る時のヘルメット着用など自分でできることにより交通事故に遭わないように、交通事故から命をおとさないように心がけることが極めて大切です。

ご家庭でも命を大切に作る指導をよろしく願いたします。